

生涯現役 推進員

報告

高齢者の活動拠点『サロン古市』が開設2周年

多田道馨（周南市）

周南市古市にある、高齢者や地域住民の憩いの場となっている『サロン古市』が先頃、開設から2周年を迎えましたのでその祝賀行事を行いました。

『サロン古市』は、旧新南陽市が平成13年度からスタートさせたふれあいいきいきサロンや生涯現役社会づくり事業などを推進するため、シニア第一クラブと地区福祉委員会（明神会）とが市の協力を得て設立したもので、地域に無料開放し、管理運営はすべてシニア第一クラブが行っています。

『サロン古市』の平成14年度の利用実績は、ふれあいいきいきサロンなどの開催が197回で、利用延べ人数は2403人にのびりました。

祝賀行事が行われた当日は、関係者36人が集まり、個人表彰をはじめ、はがき絵サロンの作品展示、昼食会、カラオケ大会等が催され、おおいにふれあいを深めることができ

ました。

出席者のお一人、吉村前新南陽市長からは「このたび周南市に合併した二市二町の中では、福祉に関しては旧新南陽市が最も進んでいます。サロン古市も開設前の予想を上回る人々に活用されており、とても嬉しい」とのお言葉をいただきました。

サロン古市がこれからも住民参加型の地域福祉実践の場として、また地域住民の交流の場として更なる充実・発展を遂げることを願ってやみません。



鎮守の森を守る

川本幸子（下松市）

今から千四百年前、推古天皇の時代には下松市は青柳浦（あおやぎうら）と呼ばれていました。ある日、海岸の1本の松の木に星が降り、七日七夜キラキラと輝いて「私は星の神である。百済の国の王様が来られる」と告げたそうです。人々が大変不思議に思っているとその神様が人に乗って移り、私は星の神様である」と。百済の国の王様、それは淋聖太子でした。

そこで人々は立派なお墓を立て、お祭りをしたのだそうです。これが現在の降松（くだまつ）神社の始まりと伝えられています。

毎月18日に、氏子の有志でその降松神社の上宮と中宮の清掃奉仕をしていますが、きれいに掃き清められたお宮を見ると清々しい気持ちになります。

中宮にある相撲場の草刈りも年に2回、中宮奉仕会と若水奉仕会、町内の方々と協力してやっています。こういう伝統のある良いものは、皆で

守つていけたらと思います。

さて、その降松神社には上宮、中宮、若宮という3つのお社がありますが、そのうちの中宮では4月13日に相撲場で子ども相撲が奉納されます。花見時なので、地区の子供会や町内会の人々が集まり、お弁当を持って来て仲良く楽しんでいきます。

10月13日の御神幸祭には神輿が3台出ます。若者が「ワッショイ」の掛け声も勇ましく長い石段を降りお旅所に上りますが、重いものなので大変だと思います。

2月3日の節分祭りには、甘酒接待や餅ばらきなどがありますので多くの参拝者があります。

大晦日には若宮の石段の左右に献灯が700あまりも飾られとても美しいです。「健康」「家内」「交通安全」と献灯者の氏名が記入された献灯は年末に氏子の皆が集まって貼っていますが、その度に「もう正月だ」という気分になります。

初詣では、除夜の鐘を若宮様で聞き中宮へとお参りをします。私も以前はそうしてい

ましたが、もう年老いてできません。

中宮には「山道を登つてきてお疲れ様」とたき火が焚かれてお神酒とお茶が用意されています。山頂から見物する下松や徳山の夜の灯はともきれいです。石段の献灯の下は人の波で一杯です。

今年もよい年でありますようにと祈る心は皆同じだろうと思います。これからもこの降松神社を昔の人がお祭りしていたように守り続けていきたいと思っています。



詩吟研究会、ユネスコの夕べに出演

新山王 哲（防府市）

詩吟研究会は、去る12月20日、防府天満宮参集殿にて開催されたユネスコ協会主催の「ユネスコの夕べ」に参加出演しました。当日は、初雪の舞う中、多数の市民の来場もあり盛会となりました。

防府商工会議所婦人部によるハンド・ベル演奏のクリスマス・ソングをはじめ、教育長の手品、ユネスコ婦人部の長唄と謡曲、社交ダンスの模範演技など盛りだくさんの内容が催される中、詩吟研究会では防府天満宮の祭神であり学問の神様である菅原道真の



生涯（缶誠流上席師範・田中絃誠先生構成・指導、スライド入りナレーション）を会員12名で披露しました（音楽伴奏・米本百々枝、吟者・佐藤透）。

会場の聴衆の皆さんからは多大な拍手をいただき、詩吟への感銘の声も聞かれました。殊に80代の会員が3名参加し、頑張つて吟じられていたことに感銘の声が高かつたようです。

初めての試み 『健康フェスタ』

小野彰三（光市）

光市老人クラブ連合会では、光市社会福祉協議会の協力を得て、11月11日、光市総合体育館にて、「第1回健康フェスタ」を開催しました。

これは、山口県主催のスポーツ大会が中止されたことに伴い、全ての実施要領の見直しが行われ、健康フェスタとして再出発したものです。

競技場は屋外から屋内に変わり、競技内容も従来は県大会の出場権をかけての地区対

抗の争奪戦であったものを各地区混合の編成チームで競技することにし、屋内競技に相応しい種目とする等見直しを行いました。

この基本に従つて、競技種目の選定、コートの設定計画、チーム編成、競技用具の調達、会場整理の方法、ニュースポーツのルール説明、実行委員の役割分担等、プログラムができるまで携われた方々のご苦労は言葉に尽くしがたいものがありました。

いよいよ当日午前9時30分、光地区消防音楽隊の演奏による国旗掲揚に引き続き、会長の挨拶、末岡光市長の祝辞等々の開会式も無事終了。「来賓・消防音楽隊」対「市老連役員」によるくす玉割り、第1回健康フェスタの幕は切つて落とされました。

競技の種類等を紹介すると、

交通安全たま送り

ゆっくり走るうほーりん
ワン

ペタンク（屋内競技用）

一発命カードおとし（同時進行で）わ！輪！和！
フォークダンス

ターゲットボードゴルフ
どん どん ぱ
たまいれ

目新しいものについて説明すると、4番の「一発命中カードおとし」は、ディスプレイ「ターゲット9」というボードに向かつて5メートル手前から玉を投げ、当たったボードの点数の合計で競います。同時進行の「わ！輪！和！」は輪投げです。

6番の「ターゲットボードゴルフ」は、パラソル型ネットホールに向かつて8メートル手前から羽根つきのゴルフボールをゴルフクラブで打ち、一打で入った数を競います。

7番の「どん どん ぱ」は5人一組で並び、右端を除いた4人が2本ずつステッキを持ち「どん どん ぱ」の掛け声とともに右の人に倒さないように2本とも順送りし、倒れた数の少ない方から順位をつける、等々です。

当初、新しい競技に審判も選手も困惑気味でしたが、次第に熱も入り、会場は明るく楽しく和やかな雰囲気となり、フェスタは大いに盛り上がり

ました。

このフェスタでは、いくつかの大きな収穫がありました。まず、フェスタ前夜は雨でしたが、今回は屋内での開催であったため、屋外開催の場合に生じる雨やグラウンドの状況確認や実施か否かの判断それに付随する様々な連絡調整等の煩わしさから解放されました。

また、競技は各地区混合のチーム編成で行ったので初めて顔を合わせるチームメンバーも少なくなかったのですが、そんな中、自然に地域間の連帯感や仲間意識が芽生え、相互交流の効果を生みだす結果となっていたようです。

いずれにせよ、初回の健康フェスタは成功裡に幕を閉じることができました。これを出発点として、県下の地方組織との交流や、近い将来に老人クラブ会員の加入年齢に達する団塊の世代の方々の交流も視野に入れながら、さらなる発展を期待したいものです。



『地域福祉の推進に思う』

森田輝男（岩国市）

山口、広島、島根の3県の境界に冠山（1339m）がある。そこより流れる山口と広島との県境の川を小瀬川（一級河川）という。長州征伐の戦場となった所である。その河口から5km南に位置する河口が山口県一の水量を誇る錦川である。あざみヶ岳の南を源流として、山口県以外に接することのない二級河川で、錦帯橋にかかる我自慢の清流である。アユ、シラウオ、ハゼ、ゴリ、ハヤ、上流にはヤマメ、カジカの住むという。

さて、地域福祉を考えると、岩国市民にとって錦川ほどなじむものはない。河口近くで今津川と門前川に分岐し、三角州を作っている。市民は歩いてすぐに行き着くことのできる川土手を、福祉活動の場所としたいと願っている。

土手下の草原に寝転がって広い清流を見渡し、大声を発する年寄りグループ。歌声喫茶の如くなつかしの歌の輪をつくる婦人グループ。腕自慢は楽器を鳴らして聴衆を喜ば

している。使用許可や手続きの何も必要としない広い草原であればよい。車イスの人も視覚障害の人も、今日は青空の下で弁当を広げる。そんな自由な地域福祉の活動場所として、錦川周辺ほど美しい所はない。子どもたちは清掃や花壇の手入れなど奉仕活動に来る。

地域福祉の一等地としてあちらの町からこちらの町から高齢者や障害者の集団が陣取る。太陽の下に歌い笑う広い場所へ、声を掛け合い、手をつないで歩いて行き帰りができるのである。

現在、錦川河川敷の広い区域は、野菜や花の畑として



代々受け継がれており、農作業の人以外は立ち入ることができない。しかし、私は河川敷の農地を広い遊び場につくり変えることは、地域福祉の推進にとって有益であると思うのである。今回は、空想の活動状況として報告させて頂きました。

『一度しかない人生の過 しし方』

藤井テル子（岩国市）

いきいきと人生を送りたいということとは、多くの人の願いだであると思う。しかし、これは一朝一夕にできるものとは思われない。自分の力で歩き、自分の身の廻り、食事をすることは当たり前のことと思っていたが、いつの間にか高齢者の仲間に入り、まわりには高血圧、糖尿病、ガン、生活習慣病と名を変えた成人病が名を連ねる時代となった。

昔、私たちが食していたものは季節感があったが、今は1年中同じものが店頭に並んでいる。今の若い人に旬のものを説明しても理解してもら

えない。昔は旬のものは栄養価が高く繊維もあり、冬は身体を暖めてくれる根のもので体内のバランスを取り、夏は汗を出すのでカリウムや水分の多いものをとるなど、季節を通して旬のもので体調を整えたとされていたと思う。

今は幼児の頃から喘息やアレルギーを患ったり、また風邪を引きやすかったり冷え性の子が多かったりするのはいかに故だろうか。土の中ではミミズの生息していない所もあると聞く。人の身体の元気を作るには、食物もまた大事な役目を担っているのではないだろうか。

今の文化・文明が進んだ社会が幸せを続けていけるのであるだろうか。私事として反省すれば、車に乗り歩くことが少なくなり運動不足となつてい

る。足を動かすことにより腹直筋が活動し胃腸の働きがよくなり、食事も美味と感じる。また横隔膜の動きがよくなり、呼吸もできる。歩くことにより身体の中ではどのような相乗効果が生まれ、元気な日を送ることができるのである。人間は動物的な性質をもつて



『第2回子どもとお年よりのふれあい会』について

岡村昭治（山口市）

平成15年12月14日（日）午後2時より、山口市の平川公

民館で平川地区青少年育成協議会主催の「第2回子どもとお年よりのふれあい会」が開催されました。

ふれあい会の開催に先立ち、私も平川地区老人クラブ連合会に、「会の企画から準備、当日の進行まで全て子ども達で行うことになっていたので、ぜひ一緒に楽しい時を過ごしましょう。参加をお待ちしております」とご案内をいただきましたので、会員のうち29名の者が参加することになりました。

当日は「ふるさと」や「君を忘れない」といった歌の披露に始まり、「平川 × クイズ」「シャトルDEビンゴ」といったゲーム、手品、おしるこのサービスなど盛りだくさんの内容で、最後には私ども高齢者一人ひとりにプレゼントが準備されており、今回のお礼と来年もぜひ来て下さいといったお誘いがしたためられた手紙もいただきました。

同ふれあい会は子どもを主体的地域参加やボランティア精神の育成、三世代交流などを目的に開催されたものですが、今回のふれあい会

の開催に従事してくれた平川中学校と平川小学校の10名（男子1名、女子9名）の皆さんの創意工夫と積極性には、明るい将来が約束されているような思いが致しました。

